

岡山県支部

中小企業の採用活動と大学生の就職意識に関する調査研究

本報告書は、社団法人中小企業診断協会岡山県支部地域活性化研究会がこれまでの調査研究をもとに中小企業の採用活動と大学生の就職意識に関する調査研究を報告するものである。本報告書の要約は、以下のとおりである。

第1章：本研究の課題

多くの新規学卒者が就職先の確保に苦慮しているにも関わらず、一方、中小企業では良い人材が集まらないことが話題にのぼる。なぜこのようなことが起こるのかが本調査研究における問題意識の核心部分である。具体的には、①中小企業の採用活動の現状、②中小企業が得ようとする人材像、③新規学卒者の就職意識の3点を問題意識とし、本調査研究の課題は、①中小企業の採用活動の実態を明らかにすること、②中小企業が新規学卒者に求める人材像について明らかにすること、③新規学卒者の中小企業に対する就職意識について明らかにすることである。

第2章：調査の設計

本研究の課題に関して検証を行うため、今回、中小企業と大学生の双方に対してアンケートによる調査を実施した。今回の調査方法は、アンケート調査票を利用した回答者記入式のアンケート調査であり、対象は企業と大学生に対して別内容の質問を準備した。このように一つの研究の中で、求人・求職サイド双方に対して同時に調査を行い、それを対照させて分析するアプローチの方法は珍しく、大きな意義があるものと自負している。

第3章：企業アンケート調査の結果

本調査の対象は、岡山県下の中小企業を中心に選定し、調査票を企業・事業所に郵送し、同票を社団法人中小企業診断協会岡山県支部へ返送していただくことにより回収した。

調査項目の概要は、①新規学卒者を採用する理由、②人材採用における情報提供手段、③採用において重視するポイント、④人材採用における問題点、⑤採用活動の手段、⑥人材採用に対する満足度である。アンケート対象企業200社に対し、回答数96社、回答率は48.0%であった。

<視察コラム>

本調査研究において、中小企業の採用方針や採用活動に参考になるとと思われる6社を訪問し、実情を伺った。視察先は、株式会社さんびる、株式会社ワコムアイティ、株式会社いづも屋、有限会社エヌ・イー・ワークス、株式会社楽喜、アイフィットである。

第4章：学生アンケート調査の結果

本調査の対象は、尾道大学（広島県）の3・4年生計101名を対象にアンケートを行った。調査項目の概要は、①就職したい会社の規模、②その理由、③就職する企業に求めること、④就職する理由や目的、⑤就職活動において中小企業を調べるかの有無と調べる場合の会社数、⑥インターンシップへの参加予定の有無、⑦インターンシップの効果である。本調査においては101名全員からの回答をいただき回答率は100%であった。

第5章：本研究の結果と提言

企業アンケートの結果をみると、筆者らが事前に考えていたほど企業は人材採用について不満を持っているわけではないということが明らかになった。この結果から、企業の人材採用に関する「不満をいかに解消させるか」よりも、「いかに満足度を向上させるか」からの視点でアプローチすべきであると思われる。

学生アンケートの結果をみると、こちらも筆者らが当初想定していたことと異なる二つの結果が明らかになった。その一つは、大学生は安定志向が強いため、中小企業よりも安定的な大企業を志向する人が多いのではないかという予想と異なり、アンケート結果は、大企業志向（「どちらかと言えば大企業」を含む）が19%であったのに対し、中小企業志向（同）が45%と大企業志向

を凌駕するかたちとなったことである。

もう一つは、大学生は安定志向が強いため、企業選択において給与の水準や福利厚生の良さなど待遇面を重視しているのではないかという予想と異なっていた点である。

このような結果を踏まえ、中小企業・大学生双方に五つの提言を行った。将来を担う若い世代の力を、可能性を秘めた多くの中小企業において存分に発揮してもらう機会を切り拓いていく必要があるものと考えている。